

### 研究会発足当初の背景

日本福祉大学終末期ケア研究会（以下、本研究会）は、質の高い終末期ケアのあり方を検討し、これを明らかにすることを目的として、1998年に設立された。これまでに、訪問看護ステーションに対する全国調査や公開研究会方式の事例検討等を通して、質の高い終末期ケアの提供に必要な4つの条件－①本人・家族の意思の把握、②ケアを支える介護力の確保、③医学医療ケアの保障、④適切なケアマネジメントの実施－を抽出した。また、この4条件を整えるための「終末期ケアマネジメント・ツール」を開発し、有用性の検証とツールのブラッシュアップを継続している。

本研究会は、研究者と実務家により組織化されている。これにより、保健・医療・福祉現場からの課題の吸い上げと、それを踏まえた研究課題の設定が可能になり、実践に根付いた研究が展開できている。

### 研究会の目的

2015年度の研究会の目的は、多職種協働で取り組む質の高い終末期ケアのあり方と評価である。具体的には次の3点に取り組む。①多死時代の中のケアマネジメントと多職種協働の実施、②多職種参加による看取り事例の「振り返りカンファレンス」の実施と評価、③研究成果を踏まえた公開研究会等の開催。

①②については、多職種協働のための研修プログラムの開発・実施・評価を検討するため、定期的に研究会を開催した。③については、日本ケアマネジメント研究セミナーD分科会への参加と、公開研究会を開催した。

### 研究会の活動実績

①多死時代の中のケアマネジメントと多職種協

働、②多職種参加による看取り事例の「振り返りカンファレンス」の実施と評価については、定例研究会を開催して検討した。

i) 多死時代の中のケアマネジメントと多職種協働

2015年5月14日（木）、7月9日（木）、10月15日（木）の定例研究会で検討した。

昨年度報告並びに今年度の実施計画の主な内容は以下の通りである。

- ・2015年度の重点課題として、先送りにしていた量的調査に着手する
- ・2014年度に実施したプレ研修を踏まえ、研修プログラムの完成を目指す

ii) 「振り返りカンファレンス」の実施と評価

A 特別養護老人ホームにて、看取り事例をもとにした、多職種（看護職員、介護職員、介護支援専門員、栄養士、生活相談員）参加型のカンファレンスを実施した。特徴は、「自由闊達なディスカッション形式」でのカンファレンスであり、ファシリテーションに関する経験豊富な者をディスカッションリーダーとすることで、参加者の積極的な参加と高い学習効果を狙った。

1回目13名、2回目10名、3回目9名の参加があり、うち9名は全回参加であった。介護職が最も多く、介護支援専門員、看護職と続いた。カンファレンスでは、安心して発言できる場作り等のファシリテーションスキルを駆使することで、全参加者からの多様な発言を引き出し、自由な雰囲気でき意見交換ができていた。

③研究成果を踏まえた公開研究会等の開催

i) 日本福祉大学第11回ケアマネジメント研究セミナー「D分科会」への参加

2016年1月17日（日）に開催された、日本福祉大学ケアマネジメント研究セミナー「D分科会」を担当した。概要は以下の通りである。

終末期研究会での取り組みから、看取りケアや「振り返りカンファレンス」の現状を確認し、医療・看護、福祉分野からの具体的な取り組みや実践例について報告した。後半では、具体的な事例をもとに、「ケースメソッド」という方法を使って展開した。多様な専門資格を有する参加者と共に、看取りケアに対する多面的な捉え方を確認し、振り返りカンファレンスの意義について考えた。

#### ii) 公開研究会の開催

研究成果を広く一般市民等に公表し、今後の研究に活用するため、以下の通り、公開研究会を開催した。概要は以下の通りである。

日時：2016年3月12日 13:00～17:00

場所：ウインクあいち

(愛知県産業労働センター)

テーマ：「終末期ケアにおける IPE・IPW のプログラム開発・実践・評価」

当日は、一般市民、保健医療福祉の専門職等、計58名の参加があった。「終末期ケアにおける多職種連携」と題した基調講演に続き、シンポジウムを行った。会場からは質問や意見が多数寄せられ、活発な議論が展開された。看取り事例の振り返りやカンファレンスに対する高い関心が示される結果となった。

#### 研究成果

- ①原沢優子、杉本浩章、上山崎悦代、篠田道子、松田実樹、近藤克則：「在宅看取りにおける多職種チームモデルと各モデルにおける課題－介護支援専門員および訪問看護師の調査から－」、第57回日本老年社会科学学会(2015年6月13日)発表
- ②杉本浩章、上山崎悦代、原沢優子、篠田道子、松田実樹、近藤克則：「終末期ケアにおける多職種協働を促進するためのプログラム開発－試行とその成果、日本保健医療福祉連携教育学会 第8回学術集会、(2015年8月9日)発表
- ③松田実樹、杉本浩章、上山崎悦代、篠田道子、原沢優子：「終末期ケアにおける専門職間協働の現

状と課題－特別養護老人ホームにおける保健福祉専門職の調査から－」、岡山県立大学保健福祉学部紀要、第22巻(2015)、査読有

- ④上山崎悦代、宇佐美千鶴、篠田道子：「多職種参加による看取り事例の『振り返りカンファレンス』の実施と評価」、日本ケアマネジメント学会 第15回研究大会 in 北九州(2016年6月発表予定)

#### 今後の展望

研究会メンバーの2名が平成28年度科研費に採択された。これまでの成果を踏まえ、研究会を巻き込んでさらに研究を進めていく。

- ①篠田道子：基盤 B「終末期ケアマネジメントと多職種チームの意思決定に関する研究」
- ②上山崎悦代：若手研究 B「終末期ケアにおける多職種連携－ソーシャルワーカーのコンピテンシーに関する研究－」

また、すでに採択されている、③杉本浩章：挑戦的萌芽研究(平成26～28年度)「多死時代の中のケアマネジメントと多職種協働」もあわせて、研究を進捗させていく。